

事業名 地域の廃ビル・空きビルを活用したアグリビジネスで地域経済の活性化

■事業の目的（300字程度）

香川県は四国の玄関と言われていたが、明石海峡大橋、瀬戸内しまなみ海道開通により交通が分散化。また経済の悪化も伴い、現在は企業の主要機関の多くは中国地方や関西に移り、県内では廃ビル・空きビルが目立ってきている。今後地方は人口減少社会を迎え、経済規模の縮小が予想される。そこで、利用しなくなった廃ビル・空きビルを利用し、自然環境に左右されない、小規模な植物工場ですべて県産品・高付加価値の野菜を栽培・加工・販売し、地域の農家との連携で事業展開を行なっています。

■事業の概要（300字程度）

- ・空きビルを使い、LED光源の閉鎖型植物工場ですべて県産品・高付加価値の野菜を栽培し販売。
- ・植物工場で栽培した野菜や農家さんが作った県産品の余剰品及びB級品（廃棄処分品）の野菜を低温除湿乾燥処理して、元の成分を保ったまま乾燥させることで素材の栄養素を破壊することなく乾燥、粉碎し野菜の濃縮されたパウダーを作ります。
- ・野菜パウダーは加工品の原料として商品を開発し、健康と美容食品として販売します。

■社会的課題の現状アプローチ（図表可）

※解決が必要な社会的課題とは、どのようなものですか。

※この課題を解決するために、本事業ではどのような着眼点でアプローチしようとしていますか。

地方の人口は減少し経済規模の縮小もあり廃ビル・空きビルが増え、利用の価値が無い建物が多くなってきています。また、農業は現在も小規模な生産者が日本の野菜生産を担っていることに変わりはありませんが、高齢化や後継者不足はますます深刻になりつつあります。このまま時が流れれば、中小の農家は多くの自然淘汰され休耕地・耕作放棄地が多くなり、田圃は減少します。

- ① 廃ビル・空きビルの利用
- ② 野菜の余剰品及びB級品の野菜パウダー利用
- ③ 新商品の開発



空きビル再利用



野菜栽培



野菜パウダーとして販売



香川県産野菜



野菜パウダー加工



野菜パウダー入り加工品

具体の事業内容（図表可）

※上記の課題を解決するという観点から、事業の内容をご説明ください

- ・当社の空きビルを使い、LED 光源の閉鎖型植物工場で、香川県オリジナル野菜の「食べて菜」、アントシアニンが多く含まれる赤軸水菜・赤からし菜、リーフレタス、水菜を栽培し販売しています。
- ・植物工場で栽培した野菜及と農家さんが作った野菜を低温除湿乾燥処理して、元の成分を保ったまま乾燥させることで素材の栄養素を破壊することなく乾燥、粉碎し野菜の濃縮されたパウダーを作り販売しています。
- ・食べて菜の野菜パウダーを使い野菜入り讃岐うどんを作り、健康と美容食品として販売しています。

■実施による効果

※この事業を実施することで、社会的課題はどのように解消される見込みですか。

- ・この事業は創意工夫で色々な展開が見込める商品を生みだせます。地域にある商品を資源として地域内で生産・活用する仕組みをつくりあげ発展、持続していくことができます。
- ・その効果が雇用創出に繋がり、地元の生産を上げ共に繁栄し、そして人口が増して行くよう、地元還元に貢献できます。
- ・栽培された野菜の余剰品及び B 級品を加工することにより廃物の軽減ができます。また、濃縮された野菜パウダーは少量で栄養素が摂取できるので、野菜不足を補えることができます。

■事業の特徴・革新性

※既存の取組と比べてどのような点が特徴的ですか。

※従来の方と比べて革新的と思われるのはどのような点ですか。

【小規模での植物工場可能性】

これまでは大型（10,000 株/日）の規模でないと収支が合わないと言われていたが、小規模施設なら生産のバリエーションの変化にすぐに対応ができます。またパウダー化すれば本来、市場に乗せることができない野菜、例えば色や形が不適切なものも利用でき環境にもやさしいです。また、成分も凝縮され色んな食材にマッチし簡単に栄養が取れ、さらに生野菜よりも保存がきき、梱包容積も小さくなり流通コストも少なくなるメリットがあります。

【新市場の創造】

野菜嫌いな子供にも野菜独特なエグミ・苦みがなく受け入れられやすいです。

野菜パウダーなら、粗食になった高齢者にも栄養分を多く入った野菜で栄養補給ができます。また、色んな分野での新商品の開発ができます。

■今後の展望

※この事業に対する今後の展望をご記入下さい。

- ・植物工場の栽培・販売を「安心・安全・健康」推進します。
 - ・耕作放棄地・遊休農地をまとめ野菜栽培をし、障害者が働ける環境を構築します。
 - ・野菜を使った新商品をつくり、独自ブランドを展開します。
- この事業で地元農業への関心を持ってもらうことにより、農業に「生き方」に「意義」や「やりがい」を見つけ出す仲間が増やしていく予定です。